

改定：2019年10月17日（木）

**[改定]**

**銀座書齋入居ビル清掃活動中に於ける銀座書齋への入室について**

生井利幸

・・・神聖なる学問所、「銀座書齋」が唱える一つの理念・・・  
**地球上に於ける「最上級のデリカシー」が、  
銀座書齋に漂う「神聖なる空気感」を維持させる**

英語道弟子課程弟子は、名実ともに、「生井利幸の弟子」です。生井利幸の弟子は、銀座書齋入居ビル・清掃活動（6階利用による学習活動を含む。以下同じ）を行うとき、生井利幸が銀座書齋に滞在中、自分の判断で、“自由に”、且つ、“無制限に”、銀座書齋内部（キッチンスペース、及び、銀座書齋・中央スペース）に入ることを可能と定めます。

弟子は、銀座書齋入居ビル・清掃活動中に於いて、以下の行為・活動を行うとき、常時、1) 「銀座書齋入口ドアをロックする」、または、2) 「インターホンを使う」を介して、銀座書齋キッチンスペース、あるいは、中央スペースを使うことができます。

## < 1 >

銀座書齋入居ビル・清掃活動をスムーズに行う上で、銀座書齋内部のキッチンスペースの水道を使う必要があるとき

## < 2 >

生け花を生ける際に於いて、1)「キッチンスペースの水道の利用」、2)「中央スペースのレッスン用テーブルの利用」が必要なとき

弟子が銀座書齋入居ビル内に於いてお花を生けるとき、師が、銀座書齋内で、レッスン、英語稽古、来客に対する対応、打ち合わせ、社会貢献活動等を行っていない場合、キッチンスペース、及び、中央スペースのレッスン用テーブルを使うことができます。但し、レッスン・稽古がスタートする直前、来客が訪問する直前、社会貢献活動を行う直前等は、師は、そのための準備があるため、弟子は「場の空気感」を読み、妥当な行動を採ってください。

レッスン用テーブルを使って生け花を生けるときは、必ず、「レッスン用テーブルに置いてあるコーヒーカップセット、お菓子等、それらすべてを“ドアから入って、向かって左隣のテーブル”に移動し」、レッスン用テーブルの上に何も無い状態でお花を生けてください。

生け花を生けた後は、基本マナーとして、しっかりと後片付けを行ってください。終了後は、テーブル付近の床を綺麗にし、布巾でレッスン用テーブルを拭いてください（換気が必要な場合は、しっかりと換気を行ってください）。

### ◆注意事項

本来に於いて、銀座書齋・中央スペースを使ってお花の手入れをする必要がないときに、意図的に、“無理して”、中央スペースを使う必要はありません。弟子は「師が醸し出す空気感」をしっかりと読み取り、そして、押し量り、「自己に於けるデリカシー存在」の行動を採ってください。

注)

「押し量る」とは、事物に対して、そのあるべき有様・様相について、理性的に推量する、察する、見当をつける、という意味。

### < 3 >

銀座書齋入居ビルの清掃活動中に於いて、休憩時間を持ち、「銀座書齋・中央スペース」にて、コーヒー・紅茶等を飲み、お菓子を食べたいとき

コーヒー・紅茶等を飲み、お菓子を食べる上でのマナーは、「銀座書齋・自習室」を利用するときのマナーに準じます。弟子が中央スペースでコーヒー・紅茶等を飲み、お菓子を食するときも、師は「奥の聖域」にて仕事を継続しています。

### < 4 >

清掃活動中、あるいは、清掃活動終了時に、「身なりを整える」、「顔を洗う」、「手を洗う」、「鼻をかむ」等を行いたいとき

### < 5 >

師が銀座書齋に滞在中、「弟子が銀座書齋入居ビル6階にて学習活動を行っている時間」に於いて、銀座書齋・中央スペースにて、コーヒー・紅茶等を飲み、お菓子を食べたいとき

上記の行為は、「銀座書齋入口の靴置き場の靴の数」、「聞こえてくる話し声」等を理性的に鑑み、「銀座書齋内部で、“明らかに”、レッスン・稽古、外部組織からの訪問者との打ち合わせ、社会貢献活動等を行っていない」と判断したときに可能です。

但し、師は、日によって、「銀座書齋を不在にする時間帯」が異なります。師は、弟子たちが想像する以上に、毎日、“込み入った、複雑なスケジュール”の下で一秒一秒を刻んでいます。弟子は、そうした師の複雑なスケジュールをしっかりと認識・理解し、「師は、弟子の都合に合わせて、既に決定済みのスケジュールを変更することはない」ということを知ってください。

### < 6 >

その他、弟子自身、「生井利幸の弟子」として必要であると判断したとき、随時、銀座書齋内部に入室することが可能です。

## 重要補足事項

### < 1 >

本文に於いて掲げられている事項は、師が、銀座書齋に滞在している場合に可能とされる事項です。

弟子は、銀座書齋内部に入室したいとき、銀座書齋入口ドアをノックして、返事を確認した後に入室してください。師の返事を確認できない場合は、必ず、インターホンを使って、入室希望の旨を師に伝えてください。

一般論として述べますが、時折、訪問者が銀座書齋入口ドアをノックするとき、師が「奥の聖域」で仕事をしていると、ノックの音が聞こえないことがあります。銀座書齋入口ドアをノックしても師の返事が確認できないときは、インターホンを使うことにより、相互のコミュニケーションを円滑に行うことができます。

### ◆銀座書齋内部入室の基本マナー

- 1 銀座書齋入口ドアをノックして、師の返事を確認後、入室。
- 2 銀座書齋入口ドアをノックしても師の返事が確認できないときは、インターホンで入室希望の旨を伝える。

### < 2 >

銀座書齋は、1)「普遍的、且つ、公平無私な学問の精神を基盤として、生井利幸が命をはって維持し続けている神聖なる書齋・研究室・学問所」であると同時に、2)「生井利幸の弟子たちにとっては、自分たちの神聖なる学問所、即ち、『英語道弟子課程・第一稽古場』」です。弟子たちは、このことを自分の命に銘じて、生井利幸の弟子として、「品格・品位・品性存在の行動」を“採”ってください。

弟子が銀座書齋・キッチンスペース、または、中央スペースを使っているとき、言うまでもなく、師は、「奥の聖域」にて仕事を継続しています。したがって、弟子が中央スペースに滞在するときは、弟子は、「弟子としての常識・マナー」を堅持・実行してください。

### < 3 >

生井利幸は、日々、レッスン・稽古、来客に対する対応、打ち合わせ等に加え、一般社会の人々に対して様々な社会貢献活動を行っています。同時に、生井利幸は、地球上のありとあらゆる組織・権力から“完全独立”して、普遍的立ち位置から、「学術研究、及び、創作活動（執筆）」等を行っています。

生井利幸自身、完全独立した状態で、普遍的、且つ、公平無私な立ち位置から「世俗社会・物質至上主義社会に生きる一般の人々に対して、『相当なる意味、及び、価値ある執筆活動・啓蒙活動』を行うには、一般社会・世俗社会に生きる人々が持つステレオタイプな価値観・捉え方では想像できないほどの 1) 「完全なる独立・孤立の状態」、2) 「“超越的” 理性的孤独の状態」、そして、3) 「“超越的” 集中状態」を確保・維持することが必要不可欠です。

生井利幸の弟子は、このような「師が執筆活動・啓蒙活動を行う上での『師に於ける“完全独立”・“完全孤立”・“完全孤独”の必要不可欠性』」をしっかりと認識・理解し、「生井利幸の弟子としての品格・品位・品性」を堅持してください。

それ故に、弟子は、「誰かとローカルな雑談をしたい」、「寂しいから誰かと話をしたい」という如き“無意味な理由”で銀座書齋内部に入室する行為は、「生井利幸の時間を大きく損失させる」という“ネガティブな事態”を招くことを認識・理解してください。

### < 4 >

一般社会に存する“通常の社会的常識”として、正規のレッスン、英語稽古、外部組織からの訪問者との打ち合わせ、社会貢献活動等を行っている最中は、“当事者以外”は、銀座書齋内部への入室を不可能とします。

一方、「銀座書齋・自習室」の時間に於いては、「清掃活動を行っている弟子」による銀座書齋内部への入室を可能と定めます。

「銀座書齋・自習室」の時間帯に於いて、弟子・受講生が、静寂の中、自習をしているときは、必要に応じて、清掃活動を行っている弟子が銀座書齋に入室し、キッチンスペースの水道を使うことができます（清掃活動としての、その他の必要な行為も含む）。

弟子であれば、しっかりと「銀座書齋・自習室」のスケジュールを認識しているはずですが、再度述べますが、「銀座書齋・自習室」の時間は、必要性がある場合は、躊躇することなく、キッチンスペースの水道を自由に使ってください（自習している学習者の後ろを通るだけですので、何の問題もありません）。

銀座書齋内部に於ける正規のレッスン、英語稽古、外部組織からの訪問者との打ち合わせ、社会貢献活動等の有無については、弟子自身が、「銀座書齋入口の靴置き場の靴」、「銀座書齋内から聞こえる話し声」、「場の空気感」等を総合的に鑑み、その有無を判断してください。

#### < 5 >

銀座書齋入居ビル・清掃活動を行うとき、弟子に於いて最も重要なことは、「一事が万事に於いて、弟子自身が、師との呼吸を合わせる」ということに尽きます。

「弟子自身に於いて、自分にとって最高峰・最上級と断言できるデリカシーのステージ（境地）」を源泉・基盤として生井利幸と呼吸を合わせる弟子は、生井利幸が賦与する正式神聖指導の範疇・枠組みの中で、銀座書齋入居ビル・清掃活動を介して、しっかりと、そして、確実に、「世界レベルの美意識」を構築する道を歩むことができます。